

---

# 天馬の伝説

神崎月夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天馬の伝説

### 【Nコード】

N3764E

### 【作者名】

神崎月夜

### 【あらすじ】

その昔、魔物によって世界は危機に陥った。しかしそれは、天馬に乗った少年によって救われた。その話が伝説になったころ…

## プロローグ

あるところに、とても平和で美しい国があったそうだ。人々は皆笑顔で暮らしている、理想郷のような国だった。

しかし、その『理想郷』に響く、異変の足音を感じ取れる者はいなかった。暗く、恐ろしい何かが、少しずつ、それでいて確実に、この国に近づいてきていた。

人々がその異変に気付いた時には、もうすでに遅かった。真つ黒な雲がその国の空を覆い、禍々しい気を持った何かが、その国の中心に現れた。禍々しい気を持った魔物の足元から植物が枯れ始め、一瞬にしてこの国は死の国と化した。

突然現れた禍々しい気を持った魔物の力は、この国を滅ぼすだけでは収まらなかった。その力は周りの国にまで広がり、やがて全世界をのみこむような勢いだった。

このままでは、この国のみならず、世界が滅びてしまう…人々の心が絶望に包まれた、その時…

輝く天馬に乗った少年が、真つ暗な空の向こうから現れた。真つ暗な空のなかで、少年の姿はひととき目立った。少年は、自分よりも遥かに大きな恐ろしい魔物を相手に勇敢に闘った。魔物と闘う少年の姿は、人々に希望を与えた。少年は一週間ずっと闘い続けた。そして。

ついに少年は魔物にとどめをさした。空を覆っていた雲がだんだん晴れていく。人々は歓喜にわいた。世界の滅亡は避けられたのだ。しかし、魔物は最後の力をふりしぼり、闘い続け疲れきった少年を死者の国である『ヨミの国』へと引きずり込んだ。ヨミの国に行けば最後、もう戻って来ることは出来ない。人々は悲しんだ。少年の名さえ訊くことは出来なかったのだから。

戦場となった場所には、少年の使っていた刀が残っていた。人々は戦場となった場所に、少年を讃えてほこらを作り、その中に少年の

使っていた刀を安置した。自分達の為に闘った、勇敢な少年のことを忘れないように…

それはもう千年以上前の話である。

そして今、その人々の思いも裏腹に、天馬に乗った少年の話を知っている人間も少なくなっていた。しかし『ジパング』という国のどこかの、竹林の奥にある小さな村で、天馬に乗った少年の物語は語り継がれていた。

その村では、少年が闘った一週間、祭りが行われる。竹林の村の天馬祭りだ。

その村に、一人の少年がいた。少年の名は康則。人を傷付けることを嫌う、心優しい少年である。村の若者の中では、比較的目立たない方である。康則はいつも本を読んだりして過ごしていた。

年は、15から16歳といったところだ。さて、そんな康則だったのが、すごい役に抜擢されていた。天馬祭りでは、伝説の少年が使った刀を村まで持ってくるのだが、その刀をほこらから持ってくるという、とても重要かつ名誉ある役だ。ほこらまでは大変危険な道のりらしい。康則は明日の出発に向け準備していた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3764e/>

---

天馬の伝説

2010年11月5日07時31分発行